

# 豪雨や台風で神戸に農業被害 県も支援へ

7月から9月にかけて、猛暑や豪雨、台風などの自然災害が各地で猛威をふるった。年々厳しくなる気象条件の中で、農業は甚大な被害を受けている。

## 神戸の被害は11億円超

神戸市内の被害金額は、平成30年7月豪雨では水路やため池の決壊などにより3億6千万円、8月24日の台風20号ではビニールハウスや農作物被害で約7億円、さらに9月4日の台風21号でも7千万円にのぼる。この緊急事態を受け、農林水産省

では、7月豪雨と台風21号による農業施設や農業用機械の被害に対して、再建や修繕に要する経費の一部助成する事業を立ち上げた。また兵庫県でも、緊急の復旧支援事業を独自で打ち出した。台風20号についても被災したビニールハウスや農業用施設、機械の新設、修繕及び再建に伴う撤去費用を、県と市町が負担し、被災者負担を軽減するもの。

西区で農業を営む山崎さん(写真左)。強風でハウスが飛んでしまった西区の畑(同右)。修理をしようとしても、悪天候が続き、なかなか作業が進まない。



## “異例”に勝つコミュニティを

神戸市西区で農業を営む高橋さんのビニールハウスでは、8月から10月にかけて、きゅうりが収穫時期を迎える。しかし、成長時期だった7月に豪雨で農地が冠水し、半数が劣化。ようやく新しい芽が出た頃には台風で4棟のビニールハウスが損傷を受けた。「次々と台風が来るので、作物を植えるタイミングが難しい。植え付けが遅れると収穫も大きく遅れ、農地のコンディションも悪いので今後の作物の出来が心配」と高橋さん。冬

にかけて、市場の野菜が品薄になったり価格が高騰する可能性がありそうだ。

同じく西区の農家・山崎さんは、「毎年、異常気象です。作物や販売方法を変えるなど、経営を見直さない」と話す。山崎さんは、作物の一部を農協を通さず、近くの住宅街で直接販売している。「お客さまとの相互に信頼できるコミュニティが、流通規格に乗らない野菜の販売先となりうる」と話す。年々厳しくなる自然環境の中で、廃棄を減らし農業を守るには、消費者と農家の距離が近いコミュニティづくりが鍵となるのかもしれない。

## 駐車場が無料に 新たな収入は企業広告

神戸エリアの駐車場シェアリングサービス「みんなの駐車場」が無料で利用できるようになった。サービスを開始した昨年9月当初は、月額固定料金で対象駐車場が停め放題だったが、9月に料金の無料化に踏み切った。完全無料の駐車場シェアサービスは珍しく、会員になればスマホアプリで提携駐車場の予約ができ、1回につき6時間まで利用可能。何度停めても無料だ。

では、収入源は何か。企業の広告収入を見込んでいるようだ。

無料にした狙いについて、運営する株式会社Minchu(神戸市)の代表取締役大崎道雄氏は、「もともと、坂の多い



神戸市東灘区の「みんなの駐車場」。市営住宅の空き駐車場を活用している。

神戸にあちこち停め放題で定額の駐車場があれば便利と考えて始めた。無料にして利用が広がれば、広告を出す企業にもメリットが出て、さらに提携駐車場を増やせる。利用者を増やし、みんなの車生活を便利にしたい」と話す。広告は主に駐車場周辺の店舗からで、予約時や入庫時に表示される。現在提携している神戸市内の8カ所以外にも早期に契約駐車場を増やし、近隣の芦屋市や西宮市にもサービスを広げる計画だ。

## 芦屋市 児童虐待対策で新制度

芦屋市は、児童虐待の早期発見・対応への取り組みとして「芦屋市児童虐待事案早期情報提供制度」の運用を開始した。病院や救急隊員が虐待の兆候に気付いた際、24時間対応できる芦屋警察署が窓口となって通報を受け付け、その後各所へ素早く情報を共有する全国でも珍しい制度となる。

芦屋市ではこれまでも、市役所や警察署、医療機関、児童相談所などで構成する「要保護児童対策地域協議会」を設置し、児童虐待の早期発見と保護に向け情報共有を進めてきた。今回の制度では、さらに連携を強化。保護が必要な子どもに迅速な対応が可能となった。



これまで医療機関では、児童虐待が疑われる場合でも、プライバシーの問題などで情報共有が難しいケースもあった。児童福祉法の改正で個人情報保護の例外規定が設けられたが、今回の制度でさらに運用しやすくなる。芦屋市子育て推進課の担当者は「制度により、医療機関からすぐに通報してもらえる。児童虐待は早期発見と対応が大切。子どもの命がなくなってしまう事態にならないよう周知したい」と話す。

## バスターミナルビルの中に 三宮図書館

神戸市は2025年度に再整備予定の「(仮称)新三宮図書館」の基本計画案をまとめた。駅から近い利便性はそのままに、規模を拡大。ビル上層階の庭園に面した、他にない美しい都市型図書館を目指す。案では「美しい知と情報のゲートウェイ」をコンセプトに、庭園の景色が望める閲覧席や、上質な



事業の協力者募集に基づき応募者が作成したものであり、そのまま実現されると決まったものではない。

雰囲気のインテリアを整備。電子書籍の提供や多言語対応を進め、多様な人々と情報をつなぐ計画。担当者は「市民の方はもちろん、三宮に立ち寄った方に居心地良く過ごしてもらえる図書館にしたい」と話す。

## 関学大にムスリム学生の「祈りの部屋」 異文化理解の場に

関西学院大学は、イスラム教徒等の学生が祈りを行う礼拝室をキャンパス内に設置した。これまで空き教室を提供していたが、学生の増加で教室が不足。廊下やトイレの個室で祈る留学生もいたため、落ち着いて祈る場が必要と設置を決めた。ユニットタイプの部屋は男女別にそれぞれ2畳分。現在45名いるイス



祈りの部屋の引き戸を開けると、板間の奥に畳敷きのスペースがある。

ラム圏からの留学生の利用を想定している。打樋(うてび)学長補佐は「イスラム教徒にとって祈りは生活の一部。安心して学べる環境を整えたい。日本人の学生も、この部屋を見て多様な人々と共にあることを実感してほしい」と話した。

## 暴力団のいない安全で安心な社会の実現に向けて

協力:兵庫県警察



住民からの通報や届出が、暴力団のいない安全で安心な社会に繋がる。暴力団員などから、脅しや暴力の被害に遭ったり、見たり聞いたりしたときには、必ず警察へ届けよう。暴力団に関する相談、通報、被害の届出は、最寄りの警察署か「暴力110番」へ。ただし、「今まさに被害に遭った」「犯行を目撃した」など、急を要する場合は直ちに110番通報を。届出にあたっては「いつ、どこで、誰が、どのような行為をしたか」などを詳しく聞かれるので、記憶だけに頼らず記録しておくことも大切だ。また、相手が使用した書類や名刺などは証拠品となる場合もあるので、むやみに触らず袋に入れるなどして保管しておこう。

警察への早い届出や相談が問題解決の一番の近道なので、躊躇することなく届け出よう。

### 暴力団事務所撤去応援プロジェクトにご協力を

兵庫県警察では、ふるさとひょうご寄附金(ふるさと納税)を活用した、暴力団事務所撤去応援プロジェクトに取り組んでいる。寄附金は、暴力団事務所の使用差止請求などの訴訟費用に使用する。詳しくは、兵庫県警察のホームページ又は兵庫県警察本部暴力団対策課へ。

「暴力110番」  
ヤフゼロ  
☎ 0120-20-8930 (24時間受付)  
兵庫県警察本部暴力団対策課  
TEL.078-341-7441 (内線4595)